

## Connecting The Dots

Connecting the dots

小林健一郎

Kenichiro KOBAYASHI



(こばやし・けんいちろう)

ICDフェロー

こばやし歯科クリニック

歯科医療の世界に縁のない実業家の長男として千葉県市川市で生まれ育った。面白い記憶としては、小学校時代は近所の真間川がたびたび氾濫し、床上浸水したため屋内の階段下までボートが近づき、階段からボートに乗船して登校した記憶がある。親としてはその後の復旧や保険など大変だったと思うが、子供にとっては楽しい経験でもあった。

母親がバイオリンを熱心に行っている影響で大学時代は音楽にも興じ、友人とバンドを組みキーボードとベースを担当した。また卒業後にはコンピュータ・ミュージックを作曲し、DTMマガジンの誌上オーディションで準優勝に輝いたこともある。

卒業後は1999年に歯科補綴学第一講座（現在の老年歯科補綴学講座）に入局した。当時の主任教授であった櫻井薫先生に「これからは訪問診療も重要となる」との見解から、介護保険元年の2000年に訪問診療のアルバイトを経験させていただいた。そのために開業当時から訪問診療も抵抗なく導入することができた。そして講座で学んだ補綴の知識は、訪問診療で活かすことができた。また当院の訪問診療部門では、中高校テニス部の同級生が、現在コーディネータとして活躍している。

訪問診療していたことは学位論文のテーマにも繋がった。Geriatrics & Gerontology Internationalという雑誌にEffect of oral cleaning using mouthwash and a mouth moisturizing gel on bacterial number and moisture level of the tongue surface of older adults requiring nursing careという論文を発表した。その研究の結論は、最も効果的な要介護高齢者への舌清掃法は、洗口液と保湿ジェルの組み合わせであるというものである。

生まれ育った市川から近隣駅である新小岩に移り、2005年に開業して18年経過した。開業当初、東京歯科大学の同級生と2名で4台のチェアからスタートした。同級生は現在でも副院長として尽力してくれている。開業5年過ぎたころ、大学は異なるがテニスサークルでの友人が副院長として入局、口腔外科系やインプラント系で当院を盛り上げてくれている。その後もいろいろな後輩たちや友人たちが一緒に働くこととなった。

父が発明家のこともあってか、自分も様々なものを作ることも好きで、いろいろな器具やシステムを発明して、特許も取得している。またキリスト教の家庭環境の中で奉仕の精神が自然と身についており、阪神淡路大震災のときには炊き出しをした。東日本大震災後には、当院の有志と訪問歯科の技術を応用して『歯科のボランティア活動』に出かけた。その時に知り合ったモンゴル人の留学生との縁から、モンゴルの移動式住宅ゲルに住む遊牧民の子供たちに対する訪問診療のノウハウを地元の歯科医師に伝えることができた。またその経験を日本歯科医学会が開催したイベントで公

表することもできた。

タイトルにしたConnecting the dotsとは、スティーブ・ジョブズが2005年のスタンフォード大学の卒業式で使用了た言葉である。人生を振り返ってみると過去の様々な経験は、点と点が繋がるように将来に何らかの形で繋がっているというものである。ICDに2023年から入会させていただいたことにより、それがまた新しい点となって、数々の素晴らしい出会となり、それらが私自身のまた世の中の発展に繋がると確信している。